

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100037		
法人名	社会福祉法人 佐賀整肢学園		
事業所名	佐賀整肢学園 かんざき清流苑		
所在地	佐賀県神埼市神埼町鶴2927-2		
自己評価作成日	平成25年1月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成25年2月26日	外部評価確定日	平成25年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>周りは田園地帯で、敷地も13,380㎡と広く、静かでゆったりとした所にあり、環境面からも生活支援をしていきたい。併設で特養ホームや居宅サービスも充実しており、情報の交換や研修などもスケールメリットで大いに可能である。又、災害や事故なども十分な協力体制がとれ安心である。このような環境の中で、ご利用者、ご家族、職員そして地域の方々の協力のもと「人としての生活を大事に、その人らしい生活の中から、自立へ向けて」生活の支援をさせて頂きたいと思っている。「・共に笑顔でくらしませう ・共に健康でくらしませう ・共に地域で暮らしませう」と、グループホーム独自の理念をかかげ、職員一同心を同じくして「特別ではなく普通の生活を求めて」支援できるよう心がけている。他、併設施設との協働でのにぎやかに行う行事や、グループホームのみで手作りのお弁当を持参しての季節の花々等の見学など、ゆっくりと味わう事の出来る行事など、日々、入居者の方々が楽しめるよう努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>南北に流れる城原川の左岸で、吉野ヶ里歴史公園から1キロ程の西に位置し、広々とした敷地を持つ特別養護老人ホームの一角に併設されたグループホームである。平屋造りで、各々の居室にはクローゼットと洗面所・トイレが設えてあり、快適に過ごせる配慮がされている。また、リビングはゆったりと過ごせるソファを備え、続き間に和室もあり冬の陽ざしも暖かい。職員の質の向上を図るため特別養護老人ホームやデイサービスの職員との合同研修や情報交換の場を多く取り入れている。又、災害や防災にも十分な配慮をし、隣接の同一法人の3階を避難場所に指定をしている。入居者の支援には「夢かなえ事業」として希望を聞き取り、理念の「共に笑顔で、健康で、地域で暮らしませう。」を実践している。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作成し、ホーム内にも掲示している。毎朝、皆で唱和し、実践につなげている。	グループホーム独自の理念である「共に笑顔で、共に健康で、共に地域で暮らします」を毎朝申し送り時に全員で唱和し、介護の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事に地元の方を招待し、交流ができるよう努めている。又、消防訓練時、地元の方にも参加して頂いている。	地域の自治会にも加入をし、月1回職員で周辺のゴミ拾い等の清掃をし、要請のある水路掃除等にも参加している。又、法人一体の季節の行事(夏まつり・敬老会・運動会・餅つき等)には地域の方を招待し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在の所、地域の人々に向けての活かしは行っておらず、地域貢献までには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回程度行い、入居者の現況や行事等の報告、運営に関する意見等を頂き、適正な運営、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2カ月に1回開催され、行政・地域・家族・法人・ホーム職員と多数の委員の参加があり、入居者の現況や行事等の報告、運営に関する意見等があり、サービス向上に活かしている。会議録も整備されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、高齢障害がい課や地域包括センターの方にも委員になって頂き、取り組み等の報告を行ったり、市が主催の「ケアネット神埼」にも職員参加し、情報交換を行い、関係作りに努めている。	運営推進会議の委員として神埼市高齢障害課職員や地域包括支援センター職員が出席されて情報を頂き取り組み等の報告や、市主催の2カ月に1回の集会「ケアネット神埼」に出席して情報交換をし、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来身体拘束は行っていない。又、随時、身体拘束については、研修会を行い、職員全員が拘束での弊害について理解できるように努めている。	身体拘束の弊害については全職員が理解をしており、拘束はない。ホーム独自の「サービス向上委員会」において研修会を実施して身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、苑内での全体研修にて虐待防止について学びながら、虐待に対する認識を職員がしっかりとってケアにあたるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等において、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。現在の所、必要性や活用での話し合いは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される前に全ての利用者や家族に契約書等により、十分に説明し、理解をして頂き同意を得ている。又、重要事項の改定時は、説明し、再度署名捺印頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置し、利用者、家族、職員がいつでも意見を出せる機会を設けている。又、施設関係者、第三者で構成されるサービス向上委員、内容を玄関に掲示しており、苦情、要望等を内容としたサービス向上委員会を開催している。	ホーム玄関には意見箱を置き、利用者や家族が意見や要望を出し易い環境を整えている。又、家族の面会や訪問の折に職員が対話をし、意見や要望等については法人で構成している「サービス向上委員会」で取り上げ検討し、質の向上を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者等が入った会議を実施し、職員の意見や提案等を聞くと共に、日頃より、管理者とスタッフの意見交換等ができるよう、管理者は話し易い環境作りに努めている。代表者は、毎日夜勤者から報告を直接聞き、意見の提案などを聞く機会を設けている。	月1回全職員出勤の日を設け会議を開催し代表者や、管理者・職員の双方向の意見交換が出易い環境づくりに努めている。又、代表者は毎日夜勤者と面談し、報告を直接聞き、意見等を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産業医による、個人面談を行ったり、代表者は個々の職員からの報告を聞いたりしながら、各自の就労状況、メンタル面など常に把握している。又定期的な会議において、職場環境を含めた内容を検討し、改善向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修においては、できるだけ参加し、毎月の会議時に伝達報告行っている。又、法人内医師による定期的な研修へも参加しながら、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われている「ケアネット神埼」やグループホーム長との意見交換会や実践発表会等に参加し、他のグループホーム職員との交流、意見の交換等行いながら、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に施設見学をして頂き、本人より直接困っている事や、不安な事を言える雰囲気作りに努めている。又、直接言えない方等に対しては、十分なアセスメントを行い、職員間で共有し、安心できる関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の相談は殆ど、本人以外の家族が多く、どのような事で困っているのか、不安に思う事、要望等を聞きながら、信頼関係を築いて行ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム利用前のケアマネと共に、本人、家族が必要としている支援を検討し、他のサービスの利用も含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者各個人の本人らしさとは何かを会議等で話し合い、食事の準備や片付け、洗濯物たみ等を職員と一緒にしながら、暮らしを共にする事を心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事などの参加や協力を依頼し、楽しみを家族も共にしながら、一緒に本人を支えていけるように協力を得ている。又、帰省時など、できるだけ、本人、家族が安心して過ごせる様、グループホームでの様子の伝達や環境へのアドバイス等行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との電話などゆっくり話しができるよう、コードレスの電話を用意し、居室でゆっくり話して頂き、関係の持続に努めている。又、昔なじみのあった場所、自宅やお寺、卒業した学校などへの訪問も行っている。	夢かなえ事業を実施して、自分の卒業した女学校や自宅・お寺等、利用者の思いおまいの希望の場所への訪問等で、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立し易い利用者には、座席の位置等配慮を行い、たの利用者との関わりができるような環境作りを心がけたり、職員が適度に入ったりしながら支えあえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他のサービスに移行しても、面会するなどして利用者や家族との関係を直ぐ断ち切らないような関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時には、生活歴や好みの物、意向等十分にアセスメントし、又、入居後も随時、本人、家族との会話の中で、思いや暮らし方の希望、意向把握に努めている。意思疎通の困難な方に対しては、表情や家族からの聞き取りにて把握に努めている	入居時に、生活歴や好みの物、意向等十分にアセスメントをしている。又、入居後も随時希望や意向の把握に努めている。困難な場合には家族からの聞き取りで把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境など、本人、家族以前のケアマネや以前のサービス利用の職員などから情報を得ながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方においては、出来る事、無理な事などを見極め、本人のペースで無理強いせず、一日を過ごして頂くよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、本人との会話、言動等の中から、面会時等において本人も含めて家族に随時、意向や思いを聞いている。又課題やケアのあり方等についても、スタッフ間で話し合いをもちながら、それぞれの意見が反映できるよう、介護計画を作成している。	日々の本人との会話や言動・行動の中から希望や意向を汲み取り、何よりも入居者本位に寄り添って支援をしている。毎月のサービス向上委員会でのモニタリングから三ヶ月毎の見直し、介護計画を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、実践の結果等、個別に記録しており、又、気づきノートを作成し、スタッフの気づきや工夫を記録、共有しながら、ケアの実践、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居を希望されても、直ぐに受け入れできない場合など、本人や家族の状況により、ショートステイやデイサービス等の支援を受けながら待つて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働までは至っていないが、地域でのイベント、(文化祭)に参加したり、お祭りにて獅子の訪問を受け、楽しみの拡大に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の診療は入居以前からのかかりつけ医へ家族の送迎にて受診をお願いしている。本人、家族のみの受診が困難時はスタッフが同行している。スタッフが同行しない場合でも、状況を記録した報告書を持参して頂き、適切な医療支援に努めている。	基本的に入居者のかかりつけ医は入居前の医療機関で、診療も家族の送迎としているが、困難な場合は職員で対応をしている。入居者の診療内容については、医療機関と家族・ホームのインフォームドコンセントを大事にしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間の看護師への連絡体制の確保、2回/週、2時間程度看護師も勤務してもらい、入居者の健康チェックや要観察者等の指示をもらいながら、適切な受診、看護が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、受診に同行したり、報告書を作成し渡したりしながら、病院関係者との関係作りに努めている。又、入院された時でも、病院へ訪問し、看護師から病状を聞いたり、家族への病状説明時に職員も同席したりしながら、現状の把握、早期退院に向けての情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、「重度化された場合の指針」について本人、家族への説明同意を得ている。又、実際に重度化された場合は、併設施設も含んで、チームにより、共有しながら支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期の在り方については、指針を示し、入居時に同意を得ている。変化があった場合には併設施設の協力を得ながら支援をしているが、ホームでの看取りはしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、職員全体で共有している。又応急手当については、消防署からの指導を受け、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡体制、マニュアルの作成を行い職員全体で共有している。又、1回/月避難訓練を実施し、2回/年の総合訓練においては、消防署からの立ち会いのもと、地域の方にも参加して頂き訓練を行っている。	毎月の全職員の出勤日に夜間を想定した避難訓練や緊急時の連絡体制を再確認している。年2回は消防署からの立会いの下に地域の方々にも参加を頂き訓練を行っている。防災の避難場所も隣接の施設3階と定め、家族にも報せている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳保持に努めた言葉かけや対応について、スタッフ会議でも話し合いを行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。又、職員全員に個人情報の取り扱いについても誓約書を提出させている。	入居者一人ひとりの人格の尊重や誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心がけて支援をしている。接遇研修も実施し、職員の質の向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中では、本人の思いや希望を十分に聞きながら、自己決定を促し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを応援するため、入居者一人一人を見つめ、その方のペースを大切に、日頃から入居者中心のケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、パーマなどは、本人の好みで行い、行事の際はほんにんの好みの服が選べる様に声かけしながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の出来る事を活かしながら、食事の準備や食事、後片付けを利用者と職員と一緒にやっている。又、外出時等においては、入居者と一緒に弁当を作ったり、好みの物を入れたりして、入居者、スタッフが一緒に食事を楽しんでいる。	入居者一人ひとりが出来る事を手伝い、食事の準備や後片づけをし、和やかな雰囲気である。特食等の献立は施設の栄養士に相談をしている。又、外食の花見弁当等も入居者と一緒に手づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じては、記録を残しながら、一人一人の食事、水分の摂取量、好みの把握を行っている。又、食欲減時には、なるべく好みの物を提供し、摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に応じた、口腔ケアの促し、介助を行い清潔保持に努めている。問題点や疑問があるときは、歯科医にも相談しながら、ケアの方法等指導してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パットを使用されている方はおられるが、全員布の下着を使用して頂いたり、トイレでの排泄を促しながら、不快感が少しでも軽減出来、自立できるように支援を行っている。又個々に排尿量に合わせてパットの種類を調節している。	全員最新式の布パンツ使用と、尿とりパットの併用をしながらトイレでの排泄を促し、不快感を軽減して、自立に向けた支援をしている。又、一人ひとりの尿量に合わせてパットの種類を調節するなどして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を心がけ、便秘に配慮した食材等を取り入れるよう心がけている。又、体操や歩行の促しをしたり、トイレの利用、必要に応じてウォシュレットの使用等にて排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現在、月、水、金の実施ではあるが、要望があれば、柔軟に対応したいと思っている。入浴中はゆったりと本人と話す機会を持てる様心がけ、入浴が気持ちよく楽しい物となるよう支援している。	入浴日は月・水・金に実施しているが、準備はいつも整っており、希望があれば個々に応じた支援は可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて(食後や入浴後、運動の後など)休息出来るよう環境に配慮している。又、夜間においても、眠れない方に対しては、状況に応じ、話を聞いたり、一緒のお茶を飲んだりしながら、気持ちの安定を図り、安眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表や服薬情報を綴ったファイルを作成し、薬の目的や副作用等について理解に努めている。又、新しく処方されたり、用量等の変化時は、副作用も含めて様子観察し、記録を行い、必要時は医師等への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人生活歴や嗜好品を本人、家族に聞き、記録に残しながら、必要に応じて、参考にしながら支援を行っている。又、併施設との協働の行事へも随時参加して楽しみの拡大を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人その日の希望にそった外出はできていないが、天気の良い日は、敷地内を散歩している。又、「夢かなえ事業」として、昔ゆかりの地や、希望の地へ出掛けたり、季節の花々を見学したりなど、外出支援を行っている。	週3回買い物に出掛ける折に1~2人の同行をしたり、天気の良い日は敷地内を散歩している。又、夢かなえ事業として希望の土地・場所への訪問をしている。孫の結婚披露宴にも職員付添いで出席出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に応じ、お金の所持をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の要望があれば、その都度電話をかけたたりしている。又、手紙についても、きちんと届くよう確認するなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、リビング等は和風作りにて、季節感を味わって頂けるよう、季節の花々を職員が持ち寄り居心地良く過ごせる様工夫している。又、廊下には、行事等での入居者の方々等の写真を貼り、入居者、家族共に楽しみに見られている。	玄関や廊下、リビング等は和風づくりである。リビングにはゆったり座れるソファを配し、その続き間に畳敷きの部屋があり、双方共南側からの陽ざしで暖かい。居室の前には、季節の行事の飾りつけ等をして和ませる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった入居者同士、リビングや居室で過ごして頂いたり、共用空間の中にも一人になれる場所を設けながら居場所作りに心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の使い慣れた家具や好みの物を置いたり、希望があれば、仏壇やテレビ等の設置、又、家族の写真を貼ったりしながら、居心地良く過ごしていただけるよう配慮している。	各々の居室にクローゼットと洗面所・トイレが設えてあり、快適に過ごせる工夫をしている。仏壇やテレビの持ち込みをしたり、思い出の写真や置物での飾りつけをして居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、廊下には手すりを設け、安全な環境作りに努めている。居室内には全て、トイレと洗面台があり、持てる力を利用した自立支援を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない